



You Tube  
録画中継は  
こちらから



太田正幸  
(立憲農民クラブ)

## 教員に不足が生じた際の 補充の方策は

### 退職した教員へ声かけをしている

**問** 教員に欠員が生じた際の補充の方策は。

**答** 県の定める教職員配置基準に基づき、県が自ら配置しておりますが、県の要請に応じて市では退職した教員へ声かけを積極的に行い代替教員の確保について協力しています。

**問** 市独自の欠員補充制度を構築する考えは。

**答** 県では、講師等希望者をあらかじめ登録し、人材を確保する欠員補充制度を既に実施しているため、市独自で制度を構築することは考えていませんが、県に対して教員の欠員が生じないよう引き続き強く働きかけていきます。

**問** 地域全体で子供を支える体制を強化するため、学校運営協議会の委員を増員する考えは。

**答** 各校から、より多様な視点を取り入れ、効果的な運用を図るために委員を増やしてほしいとの要望を受け、令和8年度から委員定数を現在の7名から10名へと拡充することを提案しています。

**問** 学校施設整備の進捗と計画は。

**答** 学校の長寿命化改修工事は、十和田中学校と東中学校は令和8年度を予定、北園小学校と三本木小学校は今後計画的に実施、ちとせ小学校は改築事業を予定していましたが、施設規模などの再検討を行います。そのほか、長寿命化改修に適さない第一中学校、法奥小学校、藤坂小学校、甲東中学校については、児童生徒にとって安全安心な教育環境が提供できるよう、必要な修繕に努めていきます。

**問** 中央病院の資金不足比率が20%を超えないよう財政的支援をすべきと考えるが市の考えは。

**答** 病院の自助努力だけでは難しい物価高騰分に対する支援を行うため、補正予算を追加提案することで進めています。



You Tube  
録画中継は  
こちらから



工藤正廣  
(柊の会)

## インフラや行政サービスの 集約化を

### 地域性に一致しない面もある

**問** 加速する少子高齢化や、社会保障費等が毎年確実に増えている状況下で、限られた収入で市民サービスを継続していくためには、インフラや行政サービスを賢く集約して効率化を図るスマートシュリンクの考え方が必要と思うが、市の考えは。

**答** 人口減少を踏まえた行政運営における一つの考え方であると思いますが、当市は行政区域が広く、1つのエリアにインフラなどを集約するという形は、地域性に一致しない面もあります。よって、拠点となるエリアを設け、インフラやサービスをそのエリアごとに集約しつつ、そこから中心市街地に至るネットワークを構築するという手法も論理的にはあり得ると考えています。

**問** 日本病院経営支援機構理事長の豊岡宏氏をアドバイザーとして経営状況を分析した経営改善報告書を踏まえた病院の経営状況と令和8年度の見込みは。

**答** 報告書中の具体的な提言として、人口減少による今後の患者数の見直し等を踏まえた病床稼働率の向上、集患営業の強化、病床コントロールの徹底、効率的なDPC入院期間の運用、コスト削減対策の実施、人件費を意識した体制の見直し等がありました。その中から経営改善に結びつくものとして、院内では令和7年11月にベッドコントロールチーム、救急強化チーム、地域連携強化チームを設置して取り組んだ結果、令和6年度と比較して令和7年度は約7億円の収支改善を見込んでいます。令和8年度も、引き続き、経営強化チームの取組や診療報酬改定のきめ細かな対応等で収支均衡に努めていきたいと考えています。